

合同 No. 485

「産み出す力がない」

世田谷中原教会牧師
金 明瑾



2023年度の合計特殊出生率が過去最低の1.20という発表がありました。一人の女性が産む子どもの数が減少しているという厚生労働省の統計を教会の立場から考えると、教会学校の子どもの数の減少をも示していることでしょうか。すでに実感していることですが、一人ひとりの女性が持つ産み出す力、これのために「一人の女性が」ではなく、わたしたちが共に考えなければならぬという求めが迫っているように思います。

産み出す力、この“力がない”という言葉は、わたしたちが自分の能力や可能性に限界を感じる瞬間を思い起こさせます。聖書には、信仰者たちが危機に直面したときに、どのようにして神に助けを求め、その結果として新たな力を得たかが記されています。

南ユダの王ヒゼキヤがエルサレムを包囲する敵に直面したとき、無礼な敵により彼の信仰は嘲笑われ、生ける神をののしられました。彼は神が侮辱されたことが耐えられませんでした。ヒゼキヤには厚い信仰心がありました。ですが、本当に立ち上がらなければならないときに彼は震えて立ち向かう力を出せませんでした。このとき、預言者イザヤの助けを求めて発した言葉が産産時に例えた悲痛な言葉です。「今日は苦しみと、懲らしめと、辱めの日、胎児は産道に達したが、これを産み出す力がない」(列王記下 19章3節)。

「赤ちゃんは頑張って生まれてこようとしているから、お母さんも踏ん張ってくださいね」と、産婦人科の看護師から言われたことがあります。「産み出す力がない」、これは生まれてくる胎児に力がないことを意味するより、踏ん張らなければならないそのときの力を母親が失っていることを意味する言葉です。昔はこのような状態になると、子どもも母親も命を落とすということが多くあったそうです。

「産み出す力がない」という嘆きの中でもヒゼキヤは

一人で祈ることはしませんでした。「宮廷長、書記官、祭司の長老たち」(列王記下19章2節)を巻き込み、さらに預言者イザヤに助けを求めました。危機のときの祈りは一人より二人が強くなります。二人より三人はさらに力強くなります。共に祈る、とりなしの祈りの強さを忘れてはなりません。彼は、神の前で祈り、とりなしを祈り求めた結果、想像を超える生ける神の働きを目の当たりにすることになりました(列王記下19章後半)。共に祈ることでヒゼキヤが神の助けを得たように、わたしたちも共に祈り合うことで、神の力を体験することができるのです。

一人の魂を救い出す(産み出す)ことが伝道であり、教会のなすべき業です。次世代伝道に取り組むとき、X世代、Y世代、Z世代へと恐ろしいほど早く変化する世代との大きなギャップを感じています。高齢化世代の教会はそのギャップを埋める言葉をまだ知らない、このことを苦しいと思ってしまうこの頃です。疲れることが多く、挫けるときもあります。力を失ったと感じます。それでもわたしたちはこういふときこそ、神に望みを強く置き、共に祈ることで。

それにもかかわらず、コロナ禍以前のように共に祈り合うことも少なくなったような気がします。祈ってください！という祈りのリクエストもあまり聞こえてこないように感じています。もしかしたらコロナ禍によって祈りに対する期待、祈りの助けを求める力さえも敵によってもぎ取られているのかも知れません。

教会から伝道のむずかしさの音が漏れるときは、一人の魂を産み出すために、とりなしの祈りの輪を広げることです。とにかく祈り合いましょ。わたしたちはそれぞれ、神から与えられた伝道する力を持っています。どんな世代変化の渦の中にも、わたしたちは自分自身の中に与えられている産み出す力、すなわち伝道する力を信じて、神のみ業を見ることが出来ます。

イザヤ預言者の言葉に「**疲れた者に力を与え 勢いを失っている者に大きな力を与えられる**」(イザヤ書40章29節)とあります。神は、わたしたちに新たな力を与え、わたしたちが直面する現実の困難を乗り越える力を授けてくださいます。教会が次世代を産み出す力を強められますように共に祈りましょ。